小中一貫によるキャリア教育と、コミュニティ・スクールを推進する

ふちのべ

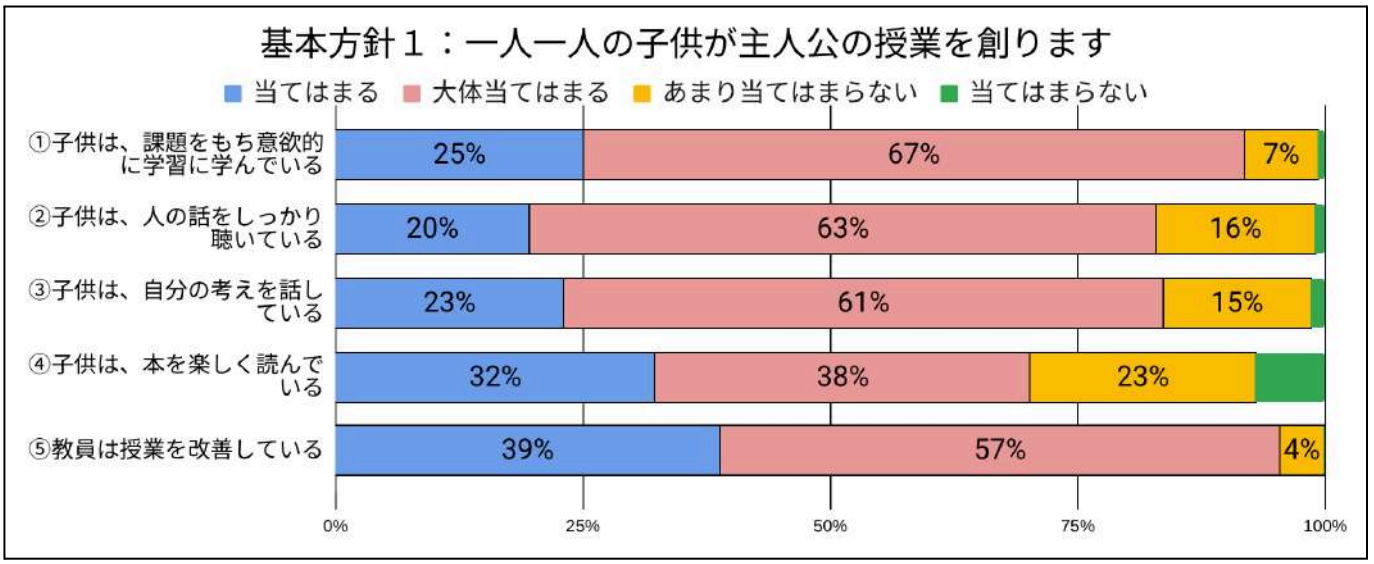
https://fuchinobe-e.sagamihara.andteacher.jp

令和8年3月17日
相模原市立淵野辺小学校
学校だより
No.13

令和7年度学校評価結果をお知らせします

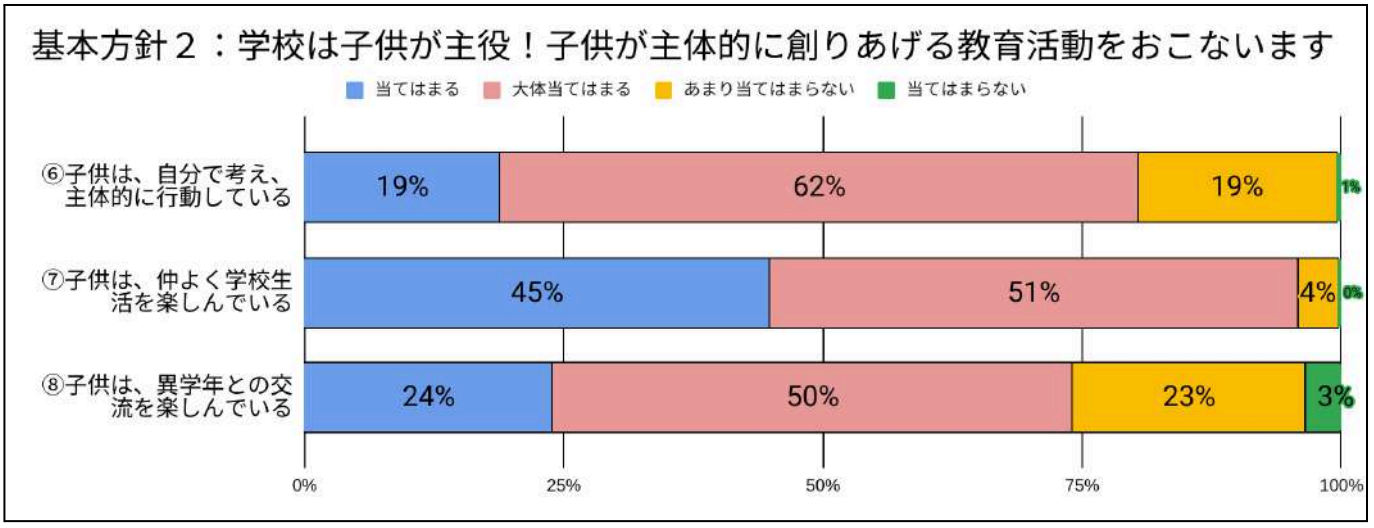
校長　淺倉　勲

12月には学校評価アンケートへご協力いただき、ありがとうございました。保護者の皆様からのアンケート結果（一部児童アンケートを含む）をもとに、本校の現状と課題を把握し、今後も地域に開かれた学校づくりや、学校教育目標である「自ら拓く共に拓く」の実現に向けて取り組んでまいります。また、2月開催の学校運営協議会における評価結果、次年度に向けた経営のポイントなどをお伝えいたします。

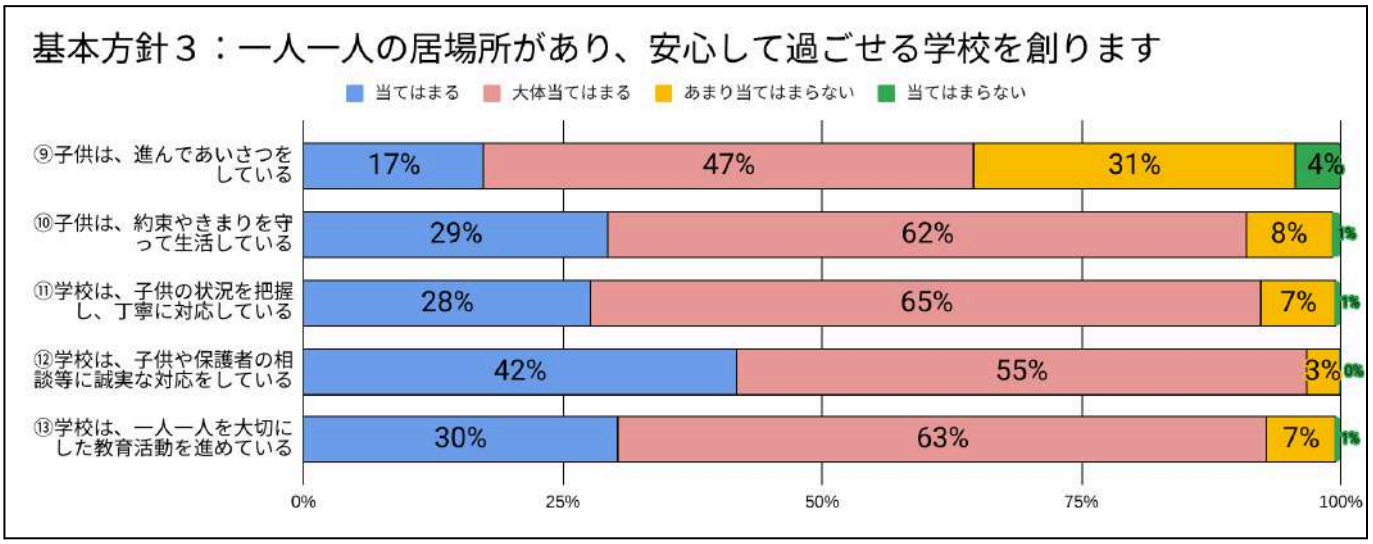


○本校では、子供が主体的に学ぶ授業をめざしています。各教科等で自分にあった課題や目標を設定し、その解決方法を自分で考え、友達と学び合いながら学習に取り組んでいる様子が家庭にも伝わっていることがうかがえます。

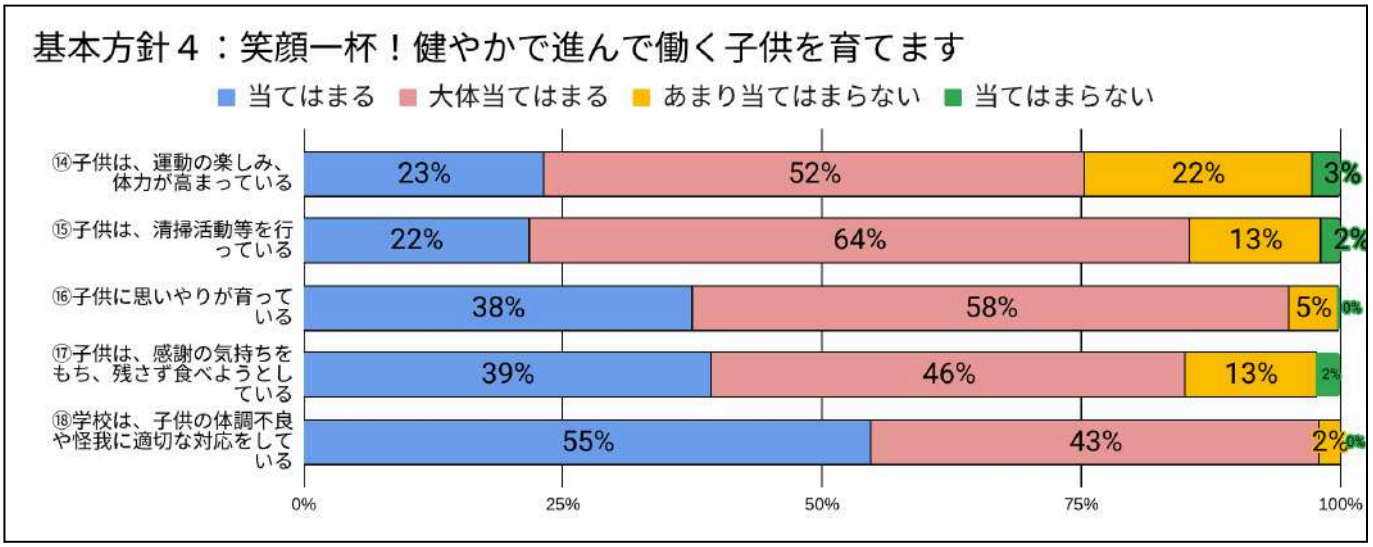
○「話を聞いて考えること」「自分の考えを伝えること」を重点として授業に取り入れています。話すことに苦手意識が感じられる様子も見られることから、今後も自分の思いや考えを発信する楽しさを味わえる、協働的でクリエイティブな学びを目指していきます。



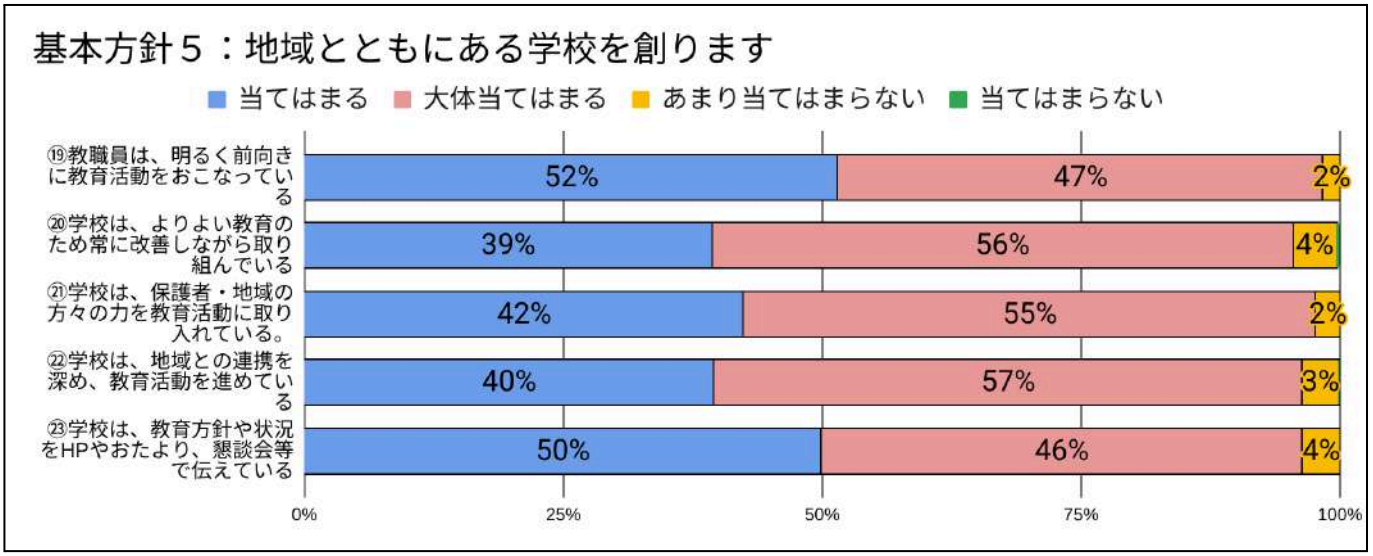
○児童数が多い学校ではありますが、学校生活の様々な場面で、子供同士が相談しながら計画、実行し、試行錯誤しながら取り組んでいる姿が見られます。思いやりに溢れた行動も見られます。今後も児童が主体となって学校生活を作り上げていくことを期待します。
○友達と仲良く楽しい学校生活を過ごしている様子が、保護者の回答だけでなく児童の回答からもうかがえます。たくさんの友達ができたり、異学年交流により思いやりの心を育てたりすることができるのが淵野辺小の良さだと感じます。
○11月に実施した運動会については、今回もたくさんのご意見・ご感想をいただきました。今回はグランドでの練習は2週間ほどとなりましたが、児童会や各学年が児童の発想を活かし、工夫を凝らした内容となりました。本校では児童が作り上げる運動会をめざして開催しておりますが、競技性を求める声もいただきました。今後も時代に即した学校行事を検討してまいります。



○「あいさつ」について、子供達自身は「元気にあいさつをしている」「頑張っている」という意識が強いようです。委員会活動や中学校と連携したあいさつ運動の効果もあり、今年度の後半は元気にあいさつする様子が見られています。
○一人一人を大切にした教育活動や保護者の皆さまとの連携に関しては、教員に対するねぎらいの言葉をいただきました。励ましをいただいたことに感謝いたします。今後も、ボランティアやサポーター、カウンセラーと連携する中で、多くの目で子供たちを支援してまいります。

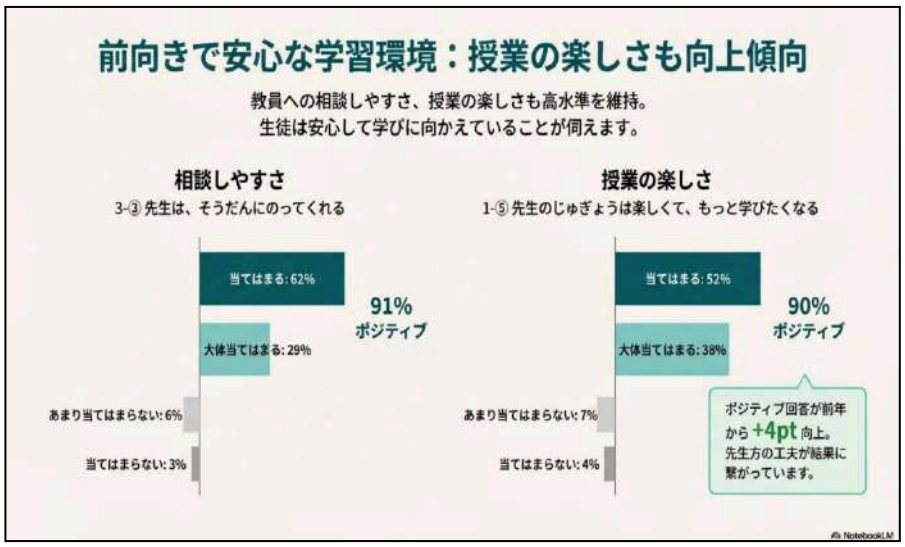


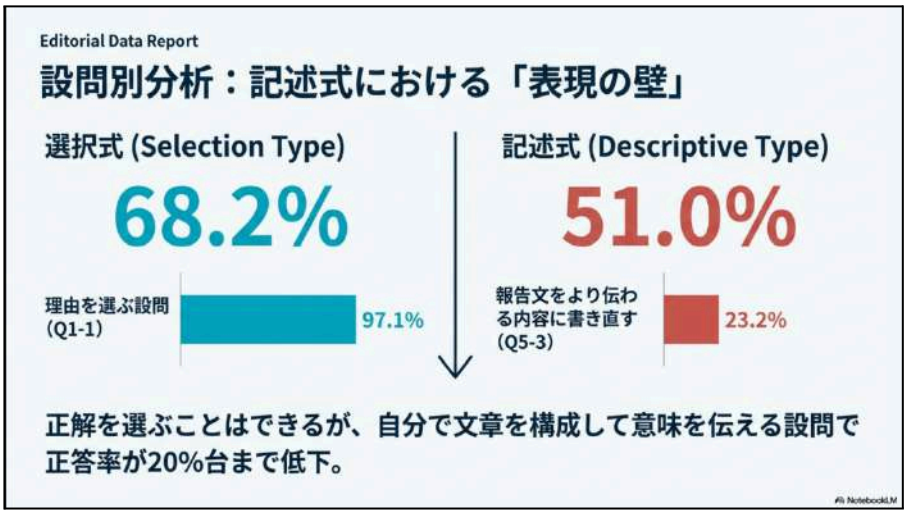
○体力調査に関する各種目の数値はここ数年かわらないものの、校舎建設工事により学校生活の中で外遊びの機会は減少しています。上学年では中学校の校庭を借用し、体育科教諭との協働的な体育授業が展開されています。今後も近隣校やPTA等様々な連携の中で、運動に親しむ機会の設定を試みていきます。
○給食メニューや食育の充実については、さらなる食材費高騰には苦労させられていますが、予算内で栄養価を満たし、旬の食材や子供が発案したメニューやクイズを取り入れるなど、工夫して行っております。今後も子供の成長と安全への配慮を心がけてまいります。



〇本校が商店街や大学をはじめ地域と連携し、学びの充実をめざしていることに、高い評価をいただきました。今後もコミュニティ・スクールとしての機能を高めてまいります。また、多くの方に「淵サポ」としてボランティア活動に参画していただいていることに感謝いたします。

【学力調査から見える本校の傾向と取組】





今年度は、教育との親和性の高いAIを活用し、本校の学力調査結果分析を試みました。すると、私達の分析と一致する部分もありました。

全体として、学習に前向きな姿勢で取り組んでいる児童が多いこと、そして、学ぶ楽しさを感じている児童も多いことがわかります。

しかし、2枚目のスライドにありますように、「正解を選ぶことはできるが、自分で文章を構成して意味を伝える力が弱い」というAIの厳しい指摘があります。各学級の授業では、時間や文字数、構成を定めた中で、自分の考えを書き表したり、声を出して表現する機会を設けたりして、「表現の壁」に挑戦する授業が見られます。

そこでは、本校児童が得意とする、基礎的な知識が活かされたり、学ぶ意欲によって活動が推進されたりすることが必要であり、今後もあるべき授業スタイルや、よりよい指導や支援、評価のあり方について、取り組む必要があると考えております。

【学校運営協議会での評価】

・基礎学力の定着があれば、知識をつなげて応用に活かせるので、本校はその土壌ができていると感じる。学年ごとの傾向なども活かして取り組むとよいのではないか。
・知識があればプラスに跳ね返ってくることがあり、自己肯定感を高めていけば、よりよい学びが展開できると考えられる。
・数年前に市が作成した史跡マップを活かした学習など、有意義な授業実践が展開されている。
・工事による制限がある中だが、淵野辺小は学校としてうまく回っていると思う。この姿勢を続けていくことが大切だと考える。
・地域と関わっていくのは望ましい方向性であり、防犯面の配慮をしながら、今後も進めてほしい。
・子供たちや先生方の努力が、広く保護者や地域に伝わるとよいと思う。さらなる評価や協力につながると考えられる。

（会議録は学校ホームページ「学校運営協議会」よりご覧いただけます）

学校運営協議会（はやぶさネットワーク）【委員構成】
・にこにこ星ふちのべ商店会
・青山学院大学
・麻布大学
・桜美林大学
・地域学校協働活動推進員
・PTA（オブザーバー）

【令和8年度　基本方針に向けた8つの視点】

これらの学校評価結果から、令和8年度に向けた視点を次のように考えております。

①学校教育目標を全教職員で共通理解を図り、すべての教育活動で目標実現に向けて取り組む。（「自ら拓く　共に拓く」は定着している）
②コミュニティ・スクールとして学びの広がりや深まりを追究する中で、「地域とともにある学校づくり」をさらに推進する。
③新校舎建築からプール撤去までの長期工事が行われ、校庭をはじめとした施設使用が制限される。その中でも子供たちが楽しく意義ある学校生活を送れるよう創意工夫し、新たな学校像を描いていく。
④すべての教育活動の土台は、「安全」と「人権」と考え、学校を運営する。
⑤グループリーダーを中核とした学校組織体制を編成し、組織的な対応を進める。
⑥学年主任のリーダーシップを大切にし、組織的な学年体制がとれるように学校全体のしくみを検討していく（教科担任制、学年体制等）
⑦「授業は大きくかわらなければいけない」と考え、よりよい授業の構築に学校全体で取り組む。また、学級経営と総合は関連性をもたせて立案する。
⑧新校舎への移転を見据え、具体的な教育環境や業務環境の構築を推進する。

【終わりに】

今回の保護者アンケートでも、本校をより良くするためのお考えをたくさんいただきました。この場でその一つ一つにお答えすることはできませんが、今後の参考とさせていただきます。また、今後の学校教育への期待や工事期間中の活動アイデア、教職員の労働環境への心遣いまでご意見をいただき、感謝しております。来年度も子供たちの成長を願い、本校らしい学校経営ができるようつとめてまいります。

あらためまして、本年度のご協力ありがとうございました。間もなく桜も開花する時期となります。家庭、地域におかれましても、4月からの新生活が実りあるものとなるようお祈りしております。

新校舎イメージ